

## Super-GT 第4戦@Sepang international Circuit #22 MOTUL AUTECH Z 2位表彰台！

(6/24-25)

毎年猛烈な暑さの中レースが行われるマレーシア、セパンサーキットで今年も2006オートボックスSUPER GT第4戦が行われた。セパンでは気温が日中30度を軽く超え、厳しい暑さを避けるため夕方16時からレースがスタートする。

24日予選開始時点の気温は27度、路面温度は28度と、マレーシアとしては低めで雨もなく、ドライでのアタックが見られることになった。結果は#22 MOTUL AUTECH Z 2位、#3イエローハット YMS トミカ Z 7位、#23 XANAVI NISMO Z 8位、#18 TAKATA童夢 NSX 9位となった。

翌25日、決勝は週一番の暑さとなり、スタート時の気温は33度、路面温度は44度まで上昇。GT500クラスはポールポジションの#8 NSX と#22 Zのトップ争いとなるが、ピットストップでトップ走行中の#8 がリアタイヤ2本のみでの交換、#22は全てのタイヤを交換したため、#22がコースに戻った時には2台の差が15秒まで広がってしまった。ドライバー交代のあと、今年初参戦となるライオン選手の追い上げで#22は一時3秒差まで詰め寄ったが、最後は5.6秒をつけられ惜しくも2位でチェッカー。その他#23は5位、#18は6位、#3は7位とGT500クラスのMOTULサポートチームは全車両ポイントを獲得した。

### 各チームの暑さ対策

毎年熱中症などでダウンするドライバーが出るほどセパンは過酷なレースです。その為、各チーム暑さ対策は入念でした。

TAKATA童夢NSXではラジエーターなどから発生する熱を外により多く排出するため、フロントボンネットにエアダクト が追加されていました。また、ドライバーのヘルメットには内部に直接空気を送るパーツ が新登場。空気のホースをヘルメットに装着すると、ヘルメットに開いた3つの穴からドライバーの頭へ直接空気が流れる仕組みになっています。極めつけはアイスボックス。ドライアイスボックス の中に入れホースで冷気をドライバーに直接当てています。

ピットではドライバーが熱くなった体を冷やす為、どのチームでもピット裏に巨大なプールが用意されていました。また、NISMOではドライバーズーツを冷やすため特製の機械も見られました。



表彰台のケルム/ライオン組



ボンネットに追加された  
エアダクト



内部に空気が流れるように  
対策されたヘルメット



ドライアイスを入れる  
箱とホース